

令和3年度第2回西海市総合教育会議 議事録

開催年月日	令和3年10月19日(火)		
開催場所	大瀬戸コミュニティセンター 3階大会議室		
開会及び閉会	開会 午後3時00分 閉会 午後4時45分		
会議構成員の氏名及び出欠の状況	市長	杉澤 泰彦	出席
	教育長	渡邊 久範	出席
	教育委員	北島 淳朗	出席
	教育委員	寺本 温	出席
	教育委員	川南 まつみ	出席
	教育委員	村山 みほ	出席
	職務のため出席した者の職氏名	教育次長	山口 英文
		教育総務課長	田口 春樹
		学校教育課長	楠本 正信
		社会教育課長	岩永 勝彦
		総務部長	山添 秀士
		総務課長	川原 進一
		総務課行政班長	益田 貴弘

議事

1. 社会教育課所管施設の整備について
2. AI ドリルの活用について
3. その他

#### 議事録

(開会)

総務課長  
(進行)

皆様こんにちは。  
皆様お集まりのようですので、ただいまから令和3年度第2回西海市総合教育会議を始めさせていただきます。  
まず、開会にあたりまして杉澤市長より挨拶を申し上げます。

市長

皆様こんにちは。  
開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。  
教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中、令和3年度第2回西海市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。  
また日頃から、本市の教育振興にご尽力いただいておりますことに重ねて感謝申し上げる次第でございます。  
前回、令和3年度第1回西海市総合教育会議におきましては、第2期西海市教育振興基本計画の体系、教育委員会の所管事務に係る自己点検・評価報告、西海市のこれからのまちづくりに関する市民意識調査の回答に対して、皆様方の活発なご意見をいただいたところであります。  
さて、本日の協議事項は、「社会教育課所管施設の整備について」と「AIドリルの活用について」の検討を行うこととなっております。  
社会教育課所管施設の整備につきましては、本市においては市町村合併前に5町に整備されている同種の施設が多数存在していることから、持続可能な施設の運営について検討したいと考えており、昨年度策定した「社会教育施設等長寿命化計画」に基づいたご提案を予定しております。  
また、AIドリルの活用につきましては、他の市町に先駆けて導入したAIドリルを皆様に実際に体験していただき、新たなアプリケーションの追加も含めて、子供たちの学びの可能性についてご意見を頂戴したいと考えております。  
本日も、皆様と一緒に教育行政について協議していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。  
簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。  
よろしく願いいたします。

総務課長

ありがとうございました。

本日の会議ですが、一応の目処といたしまして、4時45分までには終了したいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に移りたいと存じますが、ここから先の進行につきましては、市長にお願いしたいと思っております。

それでは市長よろしくお願いいたします。

市長

本日は、教育委員会より「社会教育課所管施設の整備について」及び「AIドリルの活用について」の議題をいただいております。

まず「社会教育課所管施設の整備について」の説明を社会教育課の方からお願いいたします。

社会教育課長

それでは、社会教育課所管施設の整備について説明させていただきます。お手元に2部、資料をお配りしております。

社会教育課所管施設の整備についてと書かれたものと、資料として、資料ナンバー1から資料ナンバー6を付したものの2部をお配りしておりますのでよろしくお願いいたします。

まず、社会教育課では、市民が快適かつ安全で安心して利用できる施設を維持していくための検討を行うため、令和2年度に西海市社会教育施設等長寿命化計画を策定いたしました。

その計画を基に、今後の施設整備に関する担当課としての方向性を検討しております。

その点について説明していきたいと思っております。

会議資料をご覧ください。

1ページ目から2ページ目にかけて、社会教育施設、文化施設、社会体育施設の現状と課題について記載しております。

共通した課題といたしまして、長寿命化計画の対象とした社会教育所管施設が32施設ありますけれども、冒頭の市長の挨拶にもありましたように、合併前の旧町ごとに設置をされたものがほとんどで、昭和50年代に建設され、調査時点で築年数が40年以上の施設が9施設、30年以上の施設が12施設、20年以上の施設が9施設、10年以上の施設が1施設、10年未満の施設が1施設で、約65%が建設されてから30年以上経過している状況になっております。

資料ナンバー3の付箋がついているところをご覧ください。

ここに長寿命化計画の対象となった建物情報一覧を添付しております。

施設名のところに色付けされているものが、調査時点で築年数が30年以上経過している建物になります。

黄色の1番上の基本情報のところの黄色の色が付いているところ、1番最後のところに築年数とありますけれども、見ていただくと分かるように、建

設時期がほとんど昭和 50 年代に重なっていることから、今後、老朽化による施設の改修時期が同時期に集中することや、全ての施設を今後健全な状態で長期間にわたって維持管理していくためには、多大な財源が必要になること、本市の人口推移など、将来の費用対効果を見据えた施設の廃止など抜本的な施設整備計画を検討していく必要があると思っております。

それから、ほとんどの施設が災害発生時の避難所に指定されておりますので、防災拠点として整備していく必要もあります。

会議資料の 3 ページ目をご覧ください。

ここに現状課題を踏まえて、これからの施設整備について記載しております。

施設の整備計画の基本方針といたしまして、まず前提として西海市の公共施設等総合管理計画が策定されております。

この中で、1 点目「基本的に施設の新規整備は行わない。」、2 点目「優先順位を定め計画的に除却していきます。」、3 点目「建て替えよりもまず施設の複合化など、より費用がかからない方法を検討します。」、4 点目「施設の長寿命化を進めます。」というような 4 つの基本方針が示されておりますので、社会教育施設等の整備についても、昨年度策定をした長寿命化計画を基に、この施設整備の基本方針に沿った効果的な老朽化対策を優先的に進めていきたいと考えているところです。

それから、「2. これからの施設整備」の 3 行目からになりますけれども、社会教育課の考えとしては、まず 1 点目として「施設に不具合が生じてから修繕する従来の「事後保全」から、建物の良好な維持と長期間の利用を図るために破損や支障が表面化する前に対策を講ずる「予防保全」にシフトし、「生涯にわたり活躍できる人づくり」の拠点施設として、適正な維持管理に努めたいと考えております。

2 点目に、1 番最後の 2 行になりますけれども「施設の利用頻度や必要度を再確認しながら、廃止も含め施設の整備に努めることとします。」というこの 2 点について、社会教育課の今後の施設整備の基本的な方針として定め、今後取り組んでいきたいと考えております。

実際の実施内容として、4 ページ目をご覧ください。

まず、安全・防災面ということで、施設の長寿命化を推進し、施設の躯体の延命措置を図ることを目的として、屋根・屋上の防水対策や外壁などの部位の改修を行って、その後大規模な改修工事等を実施し、避難場所として利用するための整備、環境・負荷軽減に配慮した対応を進めていきたいと思っております。

取組み内容としては、屋根・屋上の防水対策、外壁、窓ガラスの飛散防止対策、体育館・グラウンド等に設置をしております照明灯の切替え等を行っていきたいと思っております。

次に5ページ目をご覧ください。

複合化・効率化の取組みといたしまして、施設整備の縮減として、まず全ての施設において長寿命化を図るのではなく、財政面や今後の人口動態、利用状況に応じた効率的な改修、施設整備費用の縮減、恒常的に利用者が少ない施設、老朽化が進む施設で周辺に代替機能等の学校施設等がある場合には、そちらを利用していただきながら、当該施設の廃止等を検討していきたいと考えております。

主な内容としては、ここに掲げている施設について、今後検討していきたいと思っております。

資料ナンバー4をご覧ください。

こちらに長寿命化診断をした建物等の屋根・屋上及び外壁の劣化状況に対する修繕費の試算を記載しております。

診断の際に屋根・屋上及び外壁の評価がC、Dの評価になった施設について、躯体の延命措置を図るためにどれくらい経費がかかるかということをお示ししております。

1番下に記載しておりますけれども、総額約3億8,100万円程度が必要になる試算となっており、今後10年程度で改修・長寿命化の対策を講じていく必要があると考えております。

会議資料の6ページ目をご覧ください。

こちらに実際のコスト比較ということで、従来型の建て替えを前提とした今後のコストと、長寿命化を図った場合のコストとの比較表を掲載しております。

左側が従来型で、施設を50年周期で改築をしていく場合のコストの試算、右側が長寿命化形で長寿命化改修を実施しながら、施設を80年周期で改築をする試算を載せております。

ここにありますように、施設の長寿命化を前提とした維持管理を行いながら、年間コストの平準化を図っていくことで、従来型と比較すると、年間当たり6,000万円程度、今後40年間で約22億6,000万円程度のコスト削減が期待できる試算となっております。

しかし、この試算については、建物だけの維持・更新に係る費用になっておりますので、これとは別に屋外施設等の更新については別途必要になってくることになります。

特に社会体育施設については、使用している照明に水銀灯を使用しておりますが、この水銀灯が令和2年をもって製造・輸出入が全面禁止になっていることから、今後LED照明への更新が必要になりますが、照明の更新については、1施設あたり約1億円程度かかる試算となっております。

また、グラウンドについては、ナイター照明の更新に加えて、表層土の流出や排水機能の低下が認められる施設が多数あり、表層土の入替えや地中内

の排水対策など、大規模な改修も必要になってくるようになっております。

以上のようなことから、社会教育施設等の適正管理については、今後、相当な財源が必要になってくることが予想されますので、市民が快適かつ安全で安心して利用できる施設を提供するためには、冒頭申し上げたとおり事後保全から予防保全にシフトをすること、それから恒常的に利用者が少ない施設や老朽化が進む施設で周辺に代替機能となる学校施設等がある場合には、当該施設の廃止を検討していくという2つの柱で、今後、個別の整備計画を検討していきたいと担当課としては思っておりますので、この2点について、教育委員の皆様と市長と協議検討をしていただければと思います。

よろしく願いいたします。

なお、配付しております資料ナンバー1は、社会教育施設等の一覧、資料ナンバー2については、それぞれの施設の位置図、資料5及び資料6については、長寿命化計画時の診断状況等を記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

以上で説明を終わります。

検討をよろしく願いいたします。

市長                   ただいま説明をいただきました内容につきまして、皆様からご意見等を伺いたいと思います。

市長                   北島委員。

北島委員             北島です。

今ある施設を丁寧にといいますか、保全しながら使っていくということと、予防保全ということを言われましたけれども、非常に大事かと思うんですが、これを検討するにあたって、社会像の変化をどの程度考慮されているのかなと思います。

40年たつと様変わりしているわけですね。

人口でいうと、多分今の状況では5,000~6,000人しかいないという状態。その時に市長さんの1番の課題であろうと思うんですが、人口減に対してどのように対応した上で、どのようなまちづくりをし、地域の拠点をどのようにデザインしていくかということも併せて考えていかないといけない。

そうすると、今ある全ての施設を残す必要があるのかとか、あるいはコロナの影響でICTの推進が非常に進んでおり、社会システムが大きく5年10年で変わるということを言われていますので、住み方も大きく変わってくると思うんです。住む所も含めて。

そうしたときに新たな集約型のまちを作っていくという考え方も出てこようかと思います。

そういった社会変化とか人口動態をどの程度考えて、この長寿命化計画があるのかというところをお聞きしたいと思います。

市長 教育次長。

教育次長 はい。

私のほうから、お答えになるかどうか微妙なんですけれども、申し上げたいと思います。

この施設の長寿命化というのは国が基本的に進めているというところがございます。

平成 25 年 11 月に、国がインフラ長寿命化基本計画を関係省庁連絡会議で設定し、日本再興戦略で示した 2030 年のあるべき姿として安全で強靱なインフラが低コストで実現される社会を目指して国が進めるところを各省庁が受け、文部科学省はインフラ長寿命化計画を平成 27 年に策定し、各市町はその方針に従い、令和 2 年度までに策定しなさいという基本的な路線があります。

これは、教育委員会に限らず施設を所有している部署は作ってくださいということで、それで学校教育においては、令和元年度に学校施設の長寿命化計画を作り、今回、社会体育文化施設等については、令和 2 年度中に作ったというような状況でございます。

これは、国の基本的な方針と計算式のもとで作ったもので、うちが持っている施設を健全な形で、今後 40 年で 1 年間に 4.4 億円かけて改修を行うとか、建て替えを行う必要があるというようなところを、委託先が試算しました。

それで、今回の長寿命化は、事前保全という形で、壊れたところを修復するとお金がかかる、それよりは雨漏りする前に改修すると、年間 3.8 億円、6 ページの表に 3.6 億円と記載してあるとおり、1 年あたり安く済み、40 年間で 22 億円ほど経費が節減できますということとなっております。

うちとしましては、先ほど北島委員さんが申されたとおり、人口減も残念ながら 30,000 人を目指すということはあるんですが、どうしても日本全国減ってきているというところがありまして、やはり類似の施設等は集約させていくべきだろうというところがありまして、基本的には、例えばですが、大瀬戸の体育施設で言いますと、総合運動公園にしっかりとお金をかけてとか、西彼総合体育館、西海スポーツガーデンといった基本的にきちんとした機能を持っている施設にはお金をかけて、老朽化が進んで使わないだろうという施設につきましては除却していこうという形で集約を考えているところで、社会構造を見据えてというところまでは、まだなかなか考えが及んでいないんですが、一応基本的な路線としては、そういう形で今回上げ

させてもらっているというところでございます。  
以上です。

市長 北島委員。

北島委員 ありがとうございます。

後半、次長のほうから、運用の考え方、廃止も含めてお答えを聞きましたので、より現実的にシミュレートしていくということが大事だと思うんですよ。

国の計画で県が実施している医療構想がまさにそうですよね。

全国の人口動態を見ながら、生活習慣から今後その疾病がどのようになっていくのか、そして需要供給を計った上で、当然患者さんがいない地域に病院を作ったり拡充していく必要はないわけですので、整理していこうと、いろいろな意見がありましたし、今もあっておりますけれども、単なる計算上の話だけでは出来ないんですが、少なくとも西海市において教育委員会だけではなくて、全庁でこの問題に対して地域づくりしていくかというところが非常に密接な考え方になってくると思っております。

市長さんから、もしよろしければ、その辺りの今後の方向性も含めて、お話を伺えればと思います。

市長 北島委員が言われたように40年後どうなっているのかということになりますと、明確なことは言えないというのが現実だと思うんですね。

また10年先に、これからの技術の進歩によって交通手段がどうなっているのか、そして人の移動もどのような方法を取っているのかということも、なかなか掴めないという状況なんですね。

そういう中で、仰るように、まちのデザインというのは作っていかねばならないだろうと思っております。

住み方、暮らし方の変化というのもこれから変わっていくでしょうし、委員が言われたように、福祉の面でいろんな形に変わっていく予測も出来ないという中で、ソフト面の場合は、人の知恵の中で対応もできると思うんですが、これはあくまでも施設というハード面のことなので、今出来ることは少しずつやっていかないといけないんじゃないかという感じはしております。

そう言いましても、今ある施設を使わないから除却していこうということになるかと思うんですが、この除却費用もかなりのものになるということで、非常に悩ましいところがあるんですが、集約化というのは少しずつやっていかないといけないんじゃないかなと思っております。

人口を一定のところまで、人口減少を止めていかないとそれが、私の使命でもあろうかと思っておりますけれども、今この社会施設の集約化というのは、今考

えられる中で当然対応していかなければならないんじゃないかと思っております。

答えになかなかならないと思うんですが、そういうふうにもどかしさというのを感じているところです。

北島委員           ありがとうございます。

市長               ほかに何かございませんか。  
寺本委員。

寺本委員           老朽化、人口減少から、今日のお話、もっともだなと思って聞かせてもらいました。

ただ利用頻度のことを言われました。

それも大切なんです、地域の人口体系によって利用頻度は変わってくると思うんですね。

ですから、過疎化しているところが、利用頻度が少ないからといって、切捨てられるのはどうかなと思います。

それともう一つ、その利用頻度に関して、ただ人口が少ないから少ないのか、施設自体が今のニーズに合っていないから少ないのか、よく研究されて、もしニーズに合っていないんだったら、改修をされるときに、それに沿って改修していくようお願いしたいと思います。

以上です。

市長               利用頻度だけで考えていいのかということも確かであろうかと思えます。

あと、最初の説明の中で、特に体育館等は体育施設としてだけで使っているのではなくて、災害が頻発化している中で、避難所としての機能も考えていかなければならない。

複合施設と言っていましたけれども、これはどちらかというとならぬ島のほうで言っていることですが、本土側でもそういう考え方が必要になってこようかと思うんですね。

だから頻度が少ないから使わないようにしようということじゃなくて、今の目的と違った目的で使えることがあるんじゃないかという、老朽化の問題だけじゃなくて、これからの市民生活の在り方、そして命を守るというような形でも考える必要があるのかなと思います。

北島委員           市長がほとんど発言されましたけれども、私のほうも関連してなんです、考え方は施設というハードありきではないと思うんですね。

人口が少なくなってきたから切捨てるというのは、決してやってはいけない

い。

我々福祉の世界では、「1人も取り残さない」という言葉があるんですけども、それは当然だと思います。

だけど、それは施設がなければ出来ないのかということ、そうではなくて、地域共生社会ということで、地域のどこでも、その人らしく生きる社会を作っていこう、これは病気を持ってらっしゃる方でも、障害者の方も、認知症の方でも、健常者の方でもなんですが、今動いている取組みっていうのは、集いの場をつくったりとか、通いの場をつくったりとか、そういうことが国の政策としても進められております。

それは、施設ありきではなくて、例えば、皆さんが集いやすい場所というものを改修してあげるとか、人口といいますか集落の状況を見ながらそこに適切なソフト的なご支援をさせていただくとか、いろんな形があると思います。

そういった意味で、暮らし方とか住まい方というものが、今からの西海市でどうなるのかっていうことを考えながら、適切に、ハードも含めたソフトの支援ということを考えていくということが大事と思ったものですから、先ほどの寺本委員のお考えに対する、私の考え方ということで、お伝えしたいと思います。

市長

教育長から何かないですか。

教育長

今話題になっているのは社会教育施設ですけども、先日、和歌山のほうで水道橋が壊れて、水道が止まっているというニュースがあったんですけども、日本全国、生活基盤のインフラが老朽化してきます。

もちろん西海市も道路とか、あるいは橋とか水道とか、そういったものも、老朽化してきて、それに非常にお金がかかりますし、それは待てない生活基盤ですので、優先的にお金をかけなきゃいけない。

そういう中であって、社会教育施設というのは無くても生活ができるという位置付けですので、優先順位が下がってくるだろうと思います。

そういう中で、資料の2番目に地図がありまして、西海市内の施設が色分けしてあるんですけども、私これを見てこんなにあるのかということと、山がある関係で真ん中がぽっかり空いているんですよ。

旧5町が合併したことでこういうことになっているんですけども、これから将来、これを全部維持していくというのは、どう考えても難しいだろうと思われま。

そういう意味では、本当は真ん中あたりに集約して、新しい施設を建てていけば、どこからでも15分から20分で行けるといいうところでもいいんじゃないけれども、なかなか地理的なことでそれも難しいということであれば、

将来的には、図書館はここ、体育館はここということで、拠点を決めて残していくしか、これを全て更新していくというのは人口も減りますし難しいと考えております。

そういう中で、先ほど話題になってはいますがけれども、人口が少ないところ、利用頻度がないところをということで社会教育課から話があったんですけども、何らかの基準がなければ、それぞれの地域に密着した施設が近くにあるというのは非常にありがたいことなんですけれども、先ほど言いましたように、どこかを削っていくというときには、使用頻度であるとか、少ないところということになってしまうと思うんですね。

その代わりソフトの面で対応できる部分もあるかと思えます。

例えば、図書館で今年本市も導入しようとしている電子図書館。

これは、コロナでなかなか図書館にも行きづらいということで、電子図書館であれば自宅からでも利用できるということで、こういったものを将来充実させていけば、図書館という立派なものがそれぞれの地域になくてもやっていけると思えますので、そういう新しい技術を組合せながら、私としては、拠点を決めながら重点的に整備していくしか方法はないのかなと。

ここにある全部を更新していくというのは現実的に無理だと思いますので、選択しながらやっていくしかないのかなと考えております。

その際、近くにあったものがなくなるということで、実際どこを廃止していくかという議論になるとエネルギーを使うと思います。

お金もかかりますけれども、それをやっつかないと市としては成り立たないと思いますので、優先順位を決めながら、ここは残していこうという話を進めていかないといけないかなと思っております。

以上です。

市長

どこかに集約していくべきだという、それもそうだと思うんです。

ただ、この中で体育館として残すのはどれくらいだろうかということで、面積が 240 平方キロという、平地でも山間地でも非常に交通網が整備されてない中でのこの広さということで、例えば日本全国的に考えたときに、大体体育館の規模は何平方メートルぐらいで、人口ごとにこれぐらいというような基準というか、比べるものがあるかと思うんですが、西海市の地域性を考えるときに、なかなかそれもうまくいかない、どうしてもコスト高になってしまうということも考えながら、しかしながら西海市の財政状況として、それを支えていけないというようなものは、これから計画的にですね、公平査定していくことも考えていかなきゃならない。

そういう中で集いの場、そういうものはしっかりと守っていかなければならない。

集いの場は、当然高齢者の皆さん方が簡単に気楽に集まれる場所ですか

ら、当然距離感というのも、これには限界があるということで、大島に住んでいる方が西彼まで行かないと集いの場がないというようなことにはならない。

難しいけれども、集約しながら、暮らし方として必要なものは複合的に残していかなければならないというのを並行しながら考えていかなければならないと思います。

社会施設だけじゃなくて、いろいろなインフラもあるんです。

これを考えても非常に頭が痛いということで、それでさっきも申し上げましたけれども、解体するというのも大変な費用がかかるということで、去年、崎戸の体育館が台風で被害を受けまして、あれ結局幾らかかったかな 5,000万円、6,000万円。

教育総務課長 約 5,600 万円です。

市長 5,600 万円、約 6,000 万円ですね。

その何か月か前、被害を受ける前に、屋根の整備をやっていますので、あれで幾らだったかな。

教育総務課長 屋根の整備には、2,000 万円はかかっていなかったと思います。

市長 2 か月間しか持たなかったんです。台風で壊れまして、危ないからということで解体したんですけれども、6,000 万円かかるということで、解体するにしても大変なコストがかかるということです。

非常に難しい問題をはらんでいるのかなというふうに思っております。

しかし進めざるを得ないというようなところでもありますので、難しいですけれども、そういう中でまたいろんなご意見があればと思います。

川南委員 川南です。

北島委員の質問から市長のお答え、それから寺本委員のお考えや教育長のお話いろいろ聞きながら、私が漠然と思っていることに対しての何か答えが見つかったような気がするんですけど、市長が仰っていたように、5 町合併でしたけど、それぞれの町の文化が違うところの合併でしたので、施設の一覧図を見ても分かるように、山の中はもちろんないですけども、大島と西彼、町民のお考えが違う、いろいろ交流しながら思っているんですけども、その中で将来を見据えた市長のまちづくりの計画というか、ハードよりもソフトを認識しながら、人を育てていくという姿勢が見えて、感激しました。

西海市に住むにあたって、これをするにはここ、違うことをするにはここと、あちこちに足を運んで行かなければいけないというのは、交通網も整

備されていないところでは、年配の方、自分の車を運転されない人にとってはすごく苦痛になるかと思います。

でも、わざわざ足を運んでもそこに魅力あるとなると、例えば、崎戸町の公民館活動によく参加しますが、崎戸の人たちは、崎戸から何にもなくなる、何でもなくなっていくって悲観されますけど、公民館活動はすごく充実してまして、西海や西彼、大島からも足を運んだりするんですが、やっぱりハードっていうか、施設よりも、中身だなって中身で人は寄ってくるって思っています。

ですから、さっき社会教育課長と立ち話をしたんですが、いろいろお金がかかって大変ですけど、中の修理も外の環境整備も、人が集まりやすいような、そういう施設になるといいなっていうお話もしたんですが、結局、そう考えながらも、北島委員が言うように10年先20年先どのようになっているんだろう。

さっき平成何年に施行されてそれを受けてっていう次長の話がありましたが、コロナの2年間でAIの普及状況もすごく変わってきましたし、医療状況も変わってきた、福祉の取組み方も変わってきた、学校教育も変わってきた中で、もう少し西海市としてのまちづくりというか、私は西海市大好きで、山もあり海もあり人もいいっていうことで、よそから来た人にもよく宣伝するんですけど、市長にとっては、行政から見てもやりにくい西海市じゃないかなって思うんですが、やっぱりそのところをずっと、何を言いたいのか自分でもだんだんわからなくなってきました。

人を大事に、この西海市のいろんなもの、空や海や山や産業も大事に、そして住みやすく、そこに公民館活動とか社会教育施設で楽しみ、ここに住みたい、ここに行ってみたいなっていうまちづくりのための模索というか、ここで言うべきことではないかもしれないけれども、社会教育施設から少し離れますが、全体としてのまちづくりをお願いしたいなっていました。

すみません、取り留めもなく。

市長

こういう施設だけじゃなくて文化活動を効率化の中で縮小していくようなことがあってはならないというふうに思います。

西海市、5町合併していろんな考え方があるわけで、1つの物差しに当てはめるとするのは非常に難しい面があるわけですが、逆に言うと物差しが2つ3つあるということは、それだけ文化の質が高いということじゃないかなというふうに思うわけでありまして、社会教育施設を縮小していかなければならないというのはやっていかなければならない。

その中で、それぞれの地域の皆さん方の文化活動、そして高齢者の皆さん方の集いの場というのをしっかりと確保しながらやっていかなければならないと思っております。

だからダウンサイジングといいますか、規模を小さくしていかなければならないけれども、影響を最小限に食い止めながらやっていかなければならないと、これが一つの基本的な考え方ではないかなと思っております。

市長 はい、村山さん。

村山委員 私の少ない知識の範囲でしか話は出来ないんですけども、先ほども言われていますけれども、施設の利用頻度や必要に応じて廃止も含めとか、これだけたくさんある中で何を残していくかというところの中で、今学校もコミュニティスクールをということで、学校を地域のコミュニティーの拠点にということもありながら、社会教育の施設とかも同時に両方増やしたいところで、ちょっとどうかなと思うところが幾つかあったりしてですね。

例えば、西彼中学校、うちの子供がテニス部だったこともあるんですが、西彼の多目的運動公園にテニスコートが2面あります。

下が土ではなくて1面は使えないらしいんですが、例えば雨が続いて西彼中学校のテニスコートが使えないときとか、たまに多目的に行ってその使える1面を男子と女子のどちらが使うかとかいう感じで、実際、多分多目的のテニスコートって西彼中がそういう形でしか使っていないんじゃないのかなと。

運動施設もどれぐらい社会体育とか学校関係以外で使われているのかわからないんですが、西彼中のテニスコートも直す必要がある、多目的のテニスコートも直す必要もある。

どっちも中途半端とか、そういうところがたくさんあるんじゃないかなと思ったりする中で、学校のコミュニティー化を進めたいのであれば、学校のほうに力を入れるとか、現在は防犯の面などで学校には放課後、学校部外者は入れないとかいうふうになってしまっているんですが、昔は学校が、放課後でも子供とか各学校生徒以外でも公園のように散歩に行ったりグラウンドで遊んだり出来ていたし、昔のほうが地域のコミュニティーの場だったなというか、今は入れないような感じで寂しいなと思うんですが、コミュニティー化を進めるのであれば、今1度、社会施設と学校の見直しも改めて必要じゃないかと思ったりした次第です。

以上です。

市長 今、本当に良いご意見を伺ったと思うんですね。

一時期は、1つのコミュニティーを小学校区で作っていきこうというような考え方があったわけですけども、やはり学校施設を確認して、それをきちんとした後、集約化することで、コミュニティーをしっかりと作っていくというような考え方というのが非常に大切ではないかと思えます。

学校施設を使ってやれることは、今ある社会体育施設を使わなくても、学校施設をもう少し力入れて良いものにしてくというような考え方も1つあるんじゃないかと思います。

社会体育と学校教育とをまとめていくような時代になっているんじゃないかと思います。

将来のことを考えたときに悲観ばかりではいけないわけで、ひょっとしたら20年先は、人の移動というのは、自動車というのは完全に自動化して、勝手に動くような時代になっているかもしれません。

30年後はもっとすごい世界になっているかもしれないし、30年後に顧みたとき、あの時ああいう議論をしたのは何だったのだろうかというようなことになるかもしれない。

楽観的な考え方ですけれども、そういうこともあるんじゃないかと。

最近のICT、AIの進歩を見ていると、それも夢ではないのではないかということも考えて、ちょっと楽観的にだったわけですがけれども。

いずれにしても、学校をコミュニティーの核として進めていく。

その中で学校教育と高齢者の集いの場という形になっていければ、これからの少子化、そして人口減少も日本全国進んでいくわけですから、新たなコミュニティーの形成ということになっていくんじゃないだろうか。

これも100年単位で見たら、令和という時代にコミュニティーの在り方が変わってきたと歴史の教科書に載るかもしれないですし、村山さんが言われた学校区のコミュニティーの核とするという形も考えていけるんじゃないかと思います。

市長

はい、教育長。

教育長

私も学校を核にコミュニティーを作っていくというのは考えていたことなんですけれども、今、逆に学校が統廃合されて、今回で言えば大崎小学校ができるのに大島東、大島西、崎戸小学校の3つが統廃合されるんですけれども、学校がなくなった地域のコミュニティーが大丈夫かなという心配なところはあるんですね。

将来を見通したときに、さらに人口が減ってきて、今、統廃合が一段落したところなんですけれども、さらに統廃合していくと、極端な話、西海市には小学校1つ、中学校1つ、大きいのを作れば良いというような時代が来ることも考えられるんですね。

そういう中で、学校を残していくというのは、コミュニティーを残していくことになると思うんですね。

例えば小規模校ですけれども、雪浦小学校は複式で、複式は離島を除けばそこだけなんですけれども、やはり地域が小学校を核にコミュニティーを形

成している部分もあると思うんですね。

今後、学校はこれ以上減らしたくないなというのは、私の気持ちなんですが、今後、崎戸地区は小学校がなくなって、コミュニティーという面では非常に心配なところがあるんですね。

そういう意味で、学校を核にコミュニティーを形成していくというのは非常に大事なことだと思います。

また、学校の施設が、安全管理の面で一般に開放しないというところがあるかと思うんですけども、学校施設であれば改修するときに補助金が出ますので、その辺りをうまく活用するという方法もありますので、村山委員の意見に本当に賛成なんですけれども、今後、学校を核にコミュニティーを形成していくというのは本当いい意見だなと思いました。

市長                   この学校を核にコミュニティーというのは、もう結構言われていたんですが、今回の体育施設のことがあって、改めて今日感じました。

市長                   ほかに何かございませんか。

市長                   ただ、これだけの施設があるというのは、地図でこうして見ますと、真ん中の情報がないですね。

実は旧5町が合併したということで、西海市で今、中心になるところがないんですね。

それが非常に市政運営、これからのまちづくりについて非常に難しい面があるわけなんですけれども、一つの例を挙げますと、今スマイルワゴンを走らせているわけなんですけれども、例えば、諫早市には大きな中心地があり、そこに周辺の町が合併していったところであれば、中心地に向かって周辺部からコミュニティーバスを運行すれば済むわけなんですけれども、西海市には、そういった中心地がないんですね。

今のところ各町単位で運行しているというのが実情なんですけれども、そういう中でも、50年100年、先を見据えて1つの中心部を作っていくという発想でいくのか、それとも、これだけ技術が上がった中で、別に1か所に集中しなくても、もう1つ1つが分散した形で情報もすぐに交換できる。

会議は、直接顔を合わせなくても、コロナの中で、リモート会議なんかも当たり前ようになってきている。

もっと技術が上がれば、臨場感があって、目の前に人がいる感じで対面で会話しているような、そういう状況も、遠からずやってくるんじゃないかと思うんですね。

そうなった時、皆さん方がどういうふうを考えるだろうかということも考えながら、進めていかなければならないと思います。



ードの小学校はベネッセが出しているドリルで、どんなドリルかというのが書いてあります。

西海市では、今年度小学4年生から導入しています。

教科はそこに書いてある教科全部です。

5万以上の問題がある中から、その子に応じた問題を選んでAIが考えて出すというところが売りでございまして、児童へのメリットとしては3点ございます。

手書き入力もできるので、漢字の習得もできる。

やる気を引き出す工夫がある。

3点目が自分の習熟度に応じた学習ができる。

教師側にもメリットがございまして、子供たちの家庭学習でやった結果を蓄積していきまして、その分析結果を教師が確認して、日々の授業に生かすことができるというものでございます。

そのためには、使い方がわからないといけませんので、先ほど申しました9月の研修会や、GIGAスクールサポーターもおりますので、蓄積したデータの生かし方ですとか、授業ではどう活用するかっていうことを学んでいくところでございます。

中学校が次のページでございまして、中学校は、すららドリルというドリルを入れております。

こちらはさすがに幅が広うございますので問題数も多くございます。

小学生まで振り返ることができるというところで、18万以上の問題から、AI機能で自分に適した問題を生徒が解くことができるというところが売りでございます。

あと教師のメリットとしましても、先ほど申しました、子供の成果を蓄積したものを授業に生かすこともできるというところは類似しております。

学校教育課長 今から実際に利用いただきたいと思っていますので、今から準備をさせていただきます。

この体験の後で、AIドリルの活用についてということで、2番目の項目をご協議いただければと思います。

#### 【各自 AI ドリルを体験】

学校教育課長 そろそろ協議もございまして一旦体験は終わってよろしいでしょうか。

学校教育課長 このように子供たちの力に応じてAI機能を使ってと考えています。資料2番目のChromebookを使ったさらなる効果的な活用についてということで、幾つかご意見をいただきたいということで案を考えております。

まず、1点目の中頃ですが、小学1年生から3年生にもAIドリルを導入することの提案です。

先ほどご紹介しましたように、導入初年度ということで4年生以上に入れております。

ただ、学校によっては、コロナの補助金、各校100万円の補助金を使って、1年生から3年生に入れている学校もありますので、そういう実践を見て、もしよければ1年生から、次年度以降は導入ということも検討出来たらどうかと思っています。

2つ目が、さらに効果的なアプリの導入ということで考えています。

こちらの画面を見ていただければと思います。

これはロイロノートというプログラムですが、子供たちが自分が勉強したことを表現するためにまとめをするアプリです。

例えば、私が作ったスライドがあるんですけども、このようなスライドを他のプレゼンテーションソフトよりも簡単に、視覚的に繋げることができます。

子供達がスライドをそれぞれ作って、自分の思いどおりに、あ〜これ失敗だな、こっちじゃなくてこっちに繋ごうとか、この前にこれを入れようとか、子供達で自分の思い通りにできるというものでございます。

もともとはロイロノートが、子供がプレゼンテーションするときには簡単だというのがありますが、ただ30人、40人いる学級の中で、ほかの子供たちがどのようにやっているかを教員が把握するということが出来ていない。

今Chromebookに入っているアプリではないので、ロイロノートを導入してはどうかと思っているところであります。

ロイロノートの紹介を若干動画でお知らせします。

### 【ロイロノート紹介動画を視聴】

ロイロノート  
紹介動画の内  
容

先生側は、確認したい提出箱を開くことで、回収したノートや動画、PDFデータなどを一覧にして表示し、未提出者の状況を把握することが出来ます。

また、添削をして、生徒一人一人へ個別に返却をすることも可能です。

回収した提出物は、左上の回答を共有する機能を使うことで、生徒側の端末でも、クラス全員の提出物が可視化され、生徒同士による学び合いの環境を実現することが出来ます。

実際の授業の様子です。

このようにワークシートにまとめた児童生徒の考えを先生側で回答共有し、学び合いの授業環境を実現することが出来ます。

学校教育課長

という感じです。

東大名誉教授の佐藤先生が言われている、一人一人の自分の思いを表現することで学び合いというの、ある意味形にできるアプリかなということで、導入したいと思っています。提案の第2点目でした。

3点目、資料をご覧ください。

今、インターネット通信環境の更なる充実ということ、3点目に言っているんですが、実は **Chromebook** を導入してわかったことですが、今、各学校には最高1ギガバイトのルーターしか付いていません。

今までであれば、インターネット見るぐらいだったらコンピュータールームで問題なくやっていたんですが、動画を見たり、一斉に全校児童生徒が使用すると、なかなか動きが難しいという現状がわかりました。

実際30台から50台を1度に使うぐらいにしか出来ておりません。

今、教育総務課と連携をしながら、環境を更に良くするため、全校で動かせるようにしたいというところで検討を進めているところでございます。

一応この3点、今後の取組案として書かせていただきました。

ご意見等いただければと思います。

よろしく願いいたします。

市長

皆さんのほうから何かご意見はございませんか。

はい、北島委員。

北島委員

北島です。

提案とかアイデアとかではないんですけども、今、社会的にはDXということで、デジタルトランスフォーメーションという波が一気に来ております。

これは医療や介護、福祉の現場でも相当進んできているところです。

そういった中でICTを活用したり、AIソフトを導入する形で、多彩な学びを子供たちに提供できる環境っていうのは、より一層今後も進んでいくと思うんです。

ですので、ここにいろいろご提案あっていますけれども、今何が正解かってなかなかわかりにくいじゃないですか。

そういった意味では、あらゆる情報を収集しながら、成功されている事例ですとか、そういったところを柔軟にというか、もうこれに決めたからこれだけっていうことじゃなくて、変更・修正しながら取り組んでいただいて、その中から効率的なものとか、効果が上がるものが出てくると思いますので、積極的にやっていただければと感じました。

市長

今、北島委員のほうからご意見いただきましたけれども、寺本委員、何か

ありませんか。

寺本委員

どこが苦手で、どう学習されていくのかっていうのは、今日の体験ではわかりませんでした。

恐らくそういうことをしてくれながらサポートしてくれるんだろうと思います。

ご提案は、それぞれ分かるので、大切なことかとも思います。

せっかく導入したんだったら、サクサクと使えないと、途中で止まったりしているんだったら、子供の興味も薄れていくのかなと思います。

今日の教育委員会の中でも言いましたが、家庭内学習の時間が得られる起爆剤というか、子供が興味を持ってくれれば、起爆剤になっていくということも、重々感じます。

それを是非利用してほしいなと思います。

学びってというのは、もちろん興味がわいて、深く学ぶということも大切です。

そっちのほうはどちらかという学びやすいんですが、もう一つ自分が苦手なことに取り組んでいくっていう、例えば、高校時代に、微分積分だとか、実際社会で何の役に立つんだらうって思うような学習もあるわけですが、学習そのものよりも、取組む姿勢が今後生きていく上での人生の問題に、どうアプローチするかっていう心を育てていくんだらうと思います。

ですから、もちろん学習ですから、成績がついて、点数で計れる部分もあるんですが、どう取り組むかっていうことが1番僕は大切だと思うんです。

それをサポートしてくれるようなものになっていくと、すばらしいなと思っています。

以上です。

市長

川南委員、何かございますか。

川南委員

効果的な活用に向けた今後の取組についての1番目なんですが、小学1年からAIドリルをとというのは非常に良いことと思うんですけども、小学1年生は、家庭に持ち帰るとなると問題が少しあるかなと。

私、小学1年生の親で実際に使ってる人に聴取りをしたんですけども、1年生は自分1人では学習が出来ないので、やっぱり自宅で学習する場合は、親が1人ついておかなければいけない。

9月初めの話ですけども、父親と母親が交互で在宅ワークしてついていましたと。

小学1年生は学校のAI授業で使うということで一緒に使って勉強していけば、慣れたれたところで2年生ぐらい、低学年からでも1人で家庭学習ができるのではないかなと思って、取組案を見ていました。

そここのところの学校教育課の考えとしてはどのようにお考えでしょうか。

学校教育課長

学年による難しさといいたいでしょうか。

学校の授業の中で活用出来ますし、帯時間でも使えるという。

できれば保護者がいなくても、例えばドリルだったら使い方を熟知出来ていて、学校の延長で家でもやっている。

そういうふうな慣れた上での活用を工夫するように、校長にも改めて共通理解をしたいと思っています。

市長

どうぞ。はい。

村山委員

このAIドリルによって、学年の壁を越えた今までにない学習が新しくできるように、できる子はどんどん面白いように先に進むこともできるようになるっていうのは何か新しくいいような気もしますが、パソコンでの学習方法っていうのは子供の個性と一緒に合わない子もいるでしょうから、できる子は先に進んで、こういう学習方法が苦手なタイプの子たちは、今までと変わらずというか、学年によっての開きというのが多分今までにない、非常に出てくるということで、先生の対応も大変になるのかもしれないなと思ったところでして、今後そういう問題の対応や、データが集約することでその子その子の進み具合の把握は先生のほうではできるでしょうけれども、パソコン任せじゃなくて、子供と一対一の言葉でのやりとりとか確認作業っていうのも言葉で直接交わしたりできるような関係を築いていかないと、結局、先生と子供の距離も出来てきそうな気もして、いいことばかりじゃなくて、新たな問題もたくさん出てくるのかなということで、その辺の対応を、せっかく佐藤学先生から学習の助言をいただいているところですので、DVD見させてもらったら30年前からやられているということで、どういう問題があるということもたくさんご存じだと思うので、いろいろ相談をしていただきながら、西海市らしい、AIドリルやGIGAスクールの取組みを実行していただきたいと思います。

市長

私の意見となりますけれども、これを導入すること自体はですね、いいんじゃないかと思うんですが、ただ低学年というところで、これに頼らないようにというところが1番大事かなと思うんですね。

また教える側の教師がこれに頼ってしまったら大変なことになるということが考えられます。

だから使い方、そして授業の進め方、これを導入する際に授業はどのように組立てていくのか、また家庭学習をAIを使ってどのように宿題等を出していくのか、ペーパーも当然あるわけですがけれども、バランスを考えながら

やっていくべきかなと感じております。

子供たちは、すぐ対応できるようになると思うんですが、その中で苦手な子も若干おられるかもしれないし、どういうふうフォローしていくかというところを、低学年に対してAIドリルを入れる場合、授業の組立てのルールを作っておかないといけないのではないかと感じております。

今日、体験させていただきましたが、授業を私たちも見に行く機会があればと思うんですが、皆様でどうでしょうか。

授業を見て、子供たちがどういう形でこれを使って授業を受けているのかというのを、私個人として見たいという感じがありますので、どうでしょうか。

一度、時間作っていただいて、私たちも見学に行くというような。

学校教育課長 はい。

ご要望ということであれば、是非見ていただいてですね、授業での活用方法ですとか、子供の声も聞いていただけたら、更により良いものになると思います。

市長

もし学校のほうに行く機会を作っていただけるならば、せっかくだから学校給食も一緒に入れていただければ、子供たちはこういう勉強をして、昼ご飯はこういうものを食べているんだというような、また一つ学校を知ることにも繋がると思いますので、授業参観の時には学校給食もセットにしていたいただければと思います。

学校教育課長

是非、そういう計画にさせていただきたいと思います。

市長

今日、皆さん方にAIドリルを実際に体験していただいたわけですが、紹介動画の中で、子供たちが自由自在に使っている姿がありました。

始めればすぐにあのような形になると思うんですね。

知らない間に勝手に使っているというのが、今の状況じゃないかなと思っています。

だから使い方に関しては、子供達を見た時に、そんなに心配をしてないんですけども、ただ低学年となると、一定の人的な関わり方が絶対必要だろうと思いますので、バランスよくやっていただければなと思っています。

市長

そろそろ時間となったわけですが、何か皆さん方から、最後にこれをお聞きしたいというようなことがございましたら、何かございませんでしょうか。

市長 はい。教育長。

教育長 今日、AIドリルを体験していただいたんですけれども、正直なところ、まだまだ使い勝手が悪いなと私は思っています。

ソフトについても、他の会社もありますので、先ほど北島委員が言われたように、これをずっとやっていくのではなくて、もっと評判が良い、使い勝手が良いのがあれば、切替えていきたいと思っております。

今、タブレットが、1人1台行き渡ったんですけれども、私、毎回言うんですけれども、これで終わりじゃなくて、これからが大事で、ハード面でも、ルーターの容量が不足してなかなか動かないという部分もありますけれども、むしろソフト面にお金をかけないと、なかなか活用しないということになると思っていますので、GIGAスクールサポーターも今年入れていただいて、先生方の悩みとか、技術的に困ったこともサポートしていただいているんですけれども、これも今年で終わりじゃなくて、今後も継続して入れていかないといけないし、ソフトもそれほど高くはないんですよ、機材に比べれば、しかし、それをどんどん入れないと新しい試みも出来ませんので、できればソフト面にこれから力を入れて活用していきたいと思っております。

先ほどから危惧の声がありますけれども、これに頼ると、今ペーパーでやっている問題を解くっていう部分は、これでできると思うんですが、肝心の覚えるという部分、習うという部分は、これでは出来ませんので、やはり基本は学校の授業だということで、授業の在り方を、例えばロイロノートなどのソフトを使いながら、AIドリルだけじゃなくて、そういう便利なソフトを使いながら、佐藤学先生の言われている探求と協働の学びに近づけると思っていますので、ソフトに力を入れるということにご理解いただきたいと思っています。

よろしく申し上げます。

市長 私も先ほどから何回も言っていますけれども、バランスというのは非常に大事だと思っております。

実は、二十四、五年前ですか、私も学習塾をやっているときに、学研の「まなぶくん」というのがあったんですよ。

塾でちょっと出来ない子なんかは、それで自主学習をさせていたんですけれども、それに頼り過ぎて、疎かにしてしまったなという反省もあるんです。

そういうこともあったので、やはりバランス、人の手をちゃんと入れながら、低学年では特にやっていただきたいと思っております。

市長 今日は、社会体育施設等の今後の在り方、そして今、AIドリルの導入について、皆さん方に体験していただきながら、今後の低学年の導入というこ

とも議論していただいたところでございますけれども、北島委員からも出ましたDX、今、本当に進んでおります。

好むと好まざるとにかかわらず、これは進んでいくということで、これはしっかりと取組む必要があろうかと思っております。

その中で、教育長も言われていますけれども、人の心というのをしっかりと学校の中で育てていただきたいということもありますので、並行してしっかりと進めていただきたいと思っております。

市長 今日、長時間となりましたけれども、これで回答とさせていただきますでしょうか。

市長 長時間にわたります、今日は教育委員会もあつたんですね、本当に長時間に渡りましてお疲れ様でした。  
次回もよろしくお願いいたします。

総務課長 それでは、私のほうからその他といたしまして、先ほどご提案がありました授業を直接見に行くという部分については、できれば年度内に教育委員会の方で調整して、是非実現をさせたいというふうに考えております。

それから、今年度につきましては、2回会議を開きましたので、次回は次年度ということになりますけれども、予定につきましては定例教育委員会の開催時に合わせて日程調整をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

総務課長 議題について何かご意見等があればと思いますが。

総務課長 議題につきましても教育委員会事務局のほうと協議をして決定をしたいと考えておりますが、それでよろしいでしょうか。

#### 【一同承認】

総務課長 はい。ありがとうございます。

総務課長 それでは、以上をもちまして本日の日程を終了いたします。  
長時間にわたり、ご審議いただき、ありがとうございました。  
大変お疲れさまでした。

(閉会)